

<評価表> ※評価機関・ホーム共用

ホーム名	佐倉（ゆうゆうの里）	開設日	S63.5.18
評価機関	株式会社ケアシシステムズ	評価受審日	H31.1.28

評価シートNo. 1

No.	項目名	自己評価	機関評価
1 運営主体の姿勢	1.1.1 経営姿勢の周知	A	A
	1.1.2 経営における社会的責任	A	A
	1.1.3 コンプライアンスへの取り組み	A	A
	1.1.4 法人の事業計画策定	A	A
	1.2.1 財務状況の改善・向上	A	A
	1.2.2 資金管理	A	A
	1.2.3 資金管理の内部統制	A	A
	1.3.1 事業関連情報の共有	A	A
	1.3.2 個人情報保護義務	A	A
	1.3.3 個人情報の管理	A	A
	1.4.1 職員の育成	A	A
	1.4.2 職員の評価・報酬	A	A
	1.4.3 人事考課	A	A
	1.4.4 職員のモチベーション維持	A	A
	1.4.5 職員の就業状況への配慮	A	A
	1.4.6 中間管理職の役割	A	A
	1.4.7 資格取得への支援	A	A
	1.4.8 入居募集に係る職員への指導	A	A
	1.5.1 入居者の権利擁護	A	A
	1.5.2 権利擁護に係る外部との連携	A	A
1.5.3 虐待防止への組織的対応	A	A	
2 ホームの運営方針	2.1.1 運営理念の周知	A	A
	2.1.2 ホームの事業計画の策定・評価	A	A
	2.2.1 見学受け入れの姿勢	A	A
	2.2.2 体験入居への取り組み	A	A
	2.2.3 入居条件の緩和	A	A
	2.2.4 契約書類内容の整合性	A	A
	2.2.5 契約関係書類の開示時期	A	A
	2.2.6 特定施設利用契約の説明時期	A	A
	2.2.7 利用料改訂方法	A	A
	2.2.8 契約解除に係る入居者保護	A	A
	2.2.9※ 保全措置	A	A
	2.2.10 短期解約特例	A	A
	2.2.11 原状回復取扱規程	A	A
	2.3.1※ 要介護者等への職員配置	A	A
	2.3.2 夜間の職員配置	A	A
	2.3.3 サービスの質向上への取り組み	A	A
	2.3.4 ニーズの把握	A	A
	2.3.5 運営懇談会の開催	A	A
	2.3.6 ホーム運営状況の報告方法	A	A
	2.3.7※ 介護保険会計との区分	A	A
2.3.8 ホーム以外の事業会計との区分	A	A	
2.3.9 社内の苦情処理体制	A	A	
2.3.10 社外の苦情処理体制	A	A	
2.3.11 損害賠償	A	A	
2.4.1 金品授受の取扱い	A	A	
2.4.2 業務マニュアルの策定・見直し	A	A	
2.4.3 事故防止への取り組み	A	A	
2.4.4 感染症予防の取り組み	A	A	
2.4.5 災害対策マニュアルの整備	A	A	
2.4.6 防災訓練の実施	A	A	
3 建物	3.1.1 パリアフリー	B	B
	3.1.2 緊急通報装置	A	A
	3.1.3 安否確認の実施	A	A

No.	項目名	自己評価	機関評価	
設備	3.1.4 車いすでの移動	A	A	
	3.1.5 相部屋でのプライバシー配慮	非	非	
	3.1.6 共用施設の設置	A	A	
	3.1.7 来訪者との談話スペース	A	A	
	4 生活サービス	4.1.1 生活相談業務	A	A
		4.1.2 小口現金の管理	A	A
		4.1.3 生活利便サービスの実施	A	A
4.1.4 外部からの生活サービスの導入		A	A	
4.2.1 コミュニケーション		A	A	
4.2.2 アクティビティの計画的な実施	A	A		
5 食事サービス	5.1.1 バリエーション	A	A	
	5.1.2 入居者のニーズの反映	A	A	
	5.2.1 自立の観点での食事介助	A	A	
	5.2.2 疾病に対応した食事の提供	A	A	
	5.2.3 適温での提供	A	A	
5.2.4 個別の食事管理	A	A		
5.2.5 口腔ケアへの取り組み	A	A		
6 ケアマネジメント	6.1.1※ 介護の提供方針	A	A	
	6.1.2 接遇上の配慮	A	A	
	6.1.3 介護保険の制度説明	A	A	
	6.2.1※ ケアマネジメントの実施	A	A	
	6.2.2※ 個別アセスメントの実施	A	A	
	6.2.3※ ケアプランの作成	A	A	
	6.2.4※ 暫定ケアプランの作成	A	A	
	6.2.5※ ケアプランの見直し	A	A	
	6.2.6※ ケース会議等の開催	A	A	
	6.2.7 ケース会議等の個人情報利用	A	A	
6.2.8 家族等との連携	A	A		
6.2.9 身体拘束廃止への取り組み	A	A		
6.3.1※ 職員の技術向上	A	A		
6.3.2 職員の認知症介護技術向上	A	A		
6.3.3 サービス評価の実施	A	A		
7 ケアサービス	7.1.1 健康管理	A	A	
	7.1.2 緊急通報装置への対応	A	A	
	7.2.1 閉じこもりの予防	A	A	
	7.3.1※ 個別ケア（入浴）の実施	A	A	
	7.3.2※ 入浴介助時のプライバシー配慮	A	A	
	7.3.3 入浴環境の整備	A	A	
	7.3.4※ 入浴介助中の事故防止対策	A	A	
	7.4.1※ 個別ケア（排泄）の実施	A	A	
	7.4.2※ 排泄介助時のプライバシー配慮	A	A	
	7.4.3※ おむつ交換の実施	A	A	
	7.4.4※ 臭気への配慮	A	A	
	7.4.5 排泄介護用品の選定	A	A	
	7.5.1※ じょく創予防	A	A	
7.5.2※ 寝・食分離への取り組み	A	A		
7.5.3 福祉用具の選定	A	A		
7.5.4※ 館外での介助	A	A		
7.5.5※ 機能訓練の実施	A	A		
7.5.6 居住環境の整備	A	A		
7.5.7 他の入居者との関わりの支援	A	A		
7.6.1 医療機関との協力	A	A		
7.6.2 家族との医療面での連携	A	A		
7.6.3 服薬管理の実施	A	A		

注意：上記のスケールNo.に【※】印が付されている項目は、ホームの事業内容によって【非該当】との選択肢がありうるものである。（詳細は、評価プログラムを参照）

<評価結果所見書>

※評価機関記入

評価シートNo. 3

受審ホーム名 佐倉（ゆうゆうの里）

評価機関名 株式会社ケアシステムズ

優れた取り組みと思われる点

スケールNo.	
1-4-1	施設において研究発表の機会が設けられており、職員ひとり一人が目標をもって1年間取り組んだことを、研究成果として発表している。研究発表会は職員にとってさまざまな気づきを得られ学びの場ともなっている。優れた内容は本部が主催する研究発表会でもプレゼンテーションの機会があり、職員のモチベーションにつながっている。また、各々の研究成果は抄録として纏められ職員はいつでも確認することができる。研究発表会は職員の達成感や自己実現を目指す場となっている。
2-3-4	利用者の意向の把握に努めており、利用者代表が参加する運営懇談会や入居者懇談会で要望や意見を聞いている。そのほか、施設のなかは「どこでも相談室」との認識のもと、あらゆる相談事を受け付ける入居者相談会議を設けニーズの把握に努めている。また、食事懇談会も3か月に1度行い献立について入居者と話し合っている。多様な方法で把握した要望や意見には迅速に対応し利用者満足につながっている。
4-2-2	コンシェルジュが常駐するコミュニティセンターには多くのサークルの案内や地域の情報を掲示しており、さまざまな情報を得ることができる。気功、編み物、ダーツ、囲碁、卓球、ウクレレ、刺しゅう、カラオケ他多くのサークル活動がある他、入居者の人材バンクもあり、入居者に登録してもらって、衣類のリフォームや地域の保育園で英語を教えるなど、活躍の場を広げている。敷地内のプールではアクアビクスも開催される。介護居室からサークル活動に参加する入居者もいるが、介護棟においても多くのアクティビティが実施されている。また、認知症の入居者やその家族などが月1回開催する「きまクラブ」では体験談や困りごとの相談、薬剤師を招いて薬の話などを聞くなど、さまざまな活動に取り組んでいる。
5-1-2	レストランで提供される食事は、朝は和食、昼食、夕食とも日替わりで2種類の中から選択することができる。法人では全国で7施設を運営しており、施設間での情報交換もしながら、多彩なメニューを提供している。2種類のコースメニューの他に、単品のお好みメニューも用意しており、ラーメン、うな丼なども選ぶことができる。メニューに入居者の嗜好を反映するためのアンケート調査や、職員と利用者が話あう場として月1回食事懇談会を開催し、より満足度の高い食事が提供できるように取り組んでいる。

さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケールNo.	
1-4-3	職員一人ひとりの資質の向上を図ることを目的に目標管理制度を設けており、施設方針を踏まえて目標を設定し、上長が定期的な面談で指導・助言など取り組んでいる。合わせて職員研修制度を整えており、外部研修や施設内研修によって知識やスキルの向上に取り組んでいる。職員一人ひとりの目標達成状況を組織として総括するとともに、職員の希望なども取り入れながら研修制度を充実させることに期待したい。
2-4-3	事故や感染症、防災などはマニュアルを整備し対応策や手順などを明確にしている。防災訓練は全館及び各棟でも実施し、消防署の協力で指導を受けるなどしている。事故が発生した場合は記録し再発防止策を打ち出し、実践した取り組みを検証するなどサイクルを廻している。また、事業継続計画も作成し利用者の安全とサービスの継続を纏めている。施設のリスクは多様であることから、会議などの場で一つひとつの対策を検証するなどリスクマネジメントにさらに充実させることも期待される。

その他の所見

--